Japan society of Home Economics

日本家政学会誌　Vol. 59　No. 5　313～319 (2008)

19世紀後期イギリスにおける合理服協会の衣服改革
—*The Rational Dress Society's Gazette* から—

米今　由希子

(日本女子大学家政学部)

原稿受付平成19年10月5日；原稿受理平成20年1月5日

Clothing Reforms Proposed by the Rational Dress Society in Late 19th-Century Britain: From *The Rational Dress Society's Gazette*

Yukiko Komeima

Faculty of Home Economics, Japan Women's University, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8681

The aims of this paper are to throw light on the activities and ideals of the Rational Dress Society, an organization which was set up in Britain during the late 19th century with a view to reforming dress, and to examine the process that led to changes in women's clothing in late 19th-century Britain. The material I have used for conducting this research is *The Rational Dress Society's Gazette*. I discovered that the Rational Dress Society was engaged in the promotion of dress reform on the basis of the idea that rational dress should ideally be healthy, comfortable and attractive. The clothing reforms of the Rational Dress Society applied not only to the women who wore the clothes, they were also intended to encourage changes in the attitudes of men, and these reforms may be considered to have suggested new attitudes through the medium of clothing in late 19th-century Britain.

(Received October 5, 2007; Accepted in revised form January 5, 2008)

Keywords: the late 19th century　19世紀後半，England　イギリス，rational dress　合理服，Rational Dress Society　合理服協会.

1. はじめに

19世紀後半から20世紀にかけては，女子服がより活動的な衣服へと大きく変化した時代である．変化の要因としては様々な要素が複雑に関わっていたと考えられるが，まずその一つとして健康的な衣服を求める動きが挙げられる．当時の流行の衣服は，図1にあげたようなコルセットで身体を締め上げ，人工的なシルエットを作り出すものであったが，コルセットの拘束によって体を変形させてしまうほどのタイトレーシングに対して批判がおこってくる[1]．さらに，ドイツのイェガー博士がウールの下着を提唱したことにより，下着と健康の関わりについて人々が注目するようになる．コンビネーションが流行し，図2のような広告が婦人雑誌にも掲載されていることから広く販売されていたことが分かる．また，1884年には「国際健康博覧会」が開催されるなど[2]，健康的な衣服について関心が高まっていたことがうかがわれる．また，変化の要素として当時の芸術運動も挙げられる．唯美主義者たちはその芸術理念が衣服にも適用されるべきであると考えており，人間の自然な形が美しいとして，ギリシャ彫刻は美しさの完璧な例であると考えていた[3]．そして体を締め付けないゆったりとしたドレスを作り出し（図3），その芸術運動に賛同する女性たちの中で着用されるようになっていた．さらに，当時の女性を取り巻く環境の変化も，衣服の変化の要因として挙げられる．健康志向によって女性もスポーツをするようになり，上流階級の女性の間にテニスやゴルフが流行する[4]．さらに，女性にも高等教育の機会が与えられるようになり，高等教育を受けた女性が増大した．また，家庭教師として職に就かざるを得ない女性が増えるなど，女性の生活が大きく変化する中で，新しいライフスタイルに見合う衣服が求められるようになるのである．このように，それぞれの立場から衣服改良についての論議がおこってくるが，さらに衣服改良を

NII-Electronic Library Service

Japan society of Home Economics

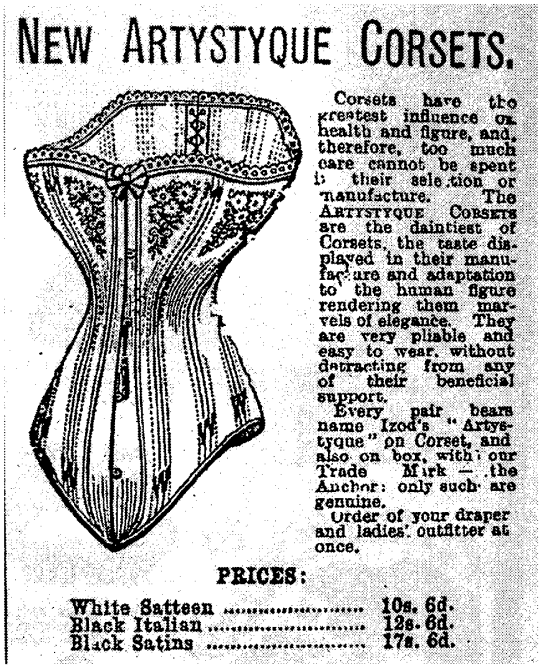


図1. コルセットの広告
The Queen, Feb. 16, 1884

図2. コンビネーションの広告
The Queen, Jan. 12, 1884

図3. ジェーン・モリス
Courtesy William Moriss Gallery, London

目的として合理服協会が設立される．しかし合理服協会についての研究は，衣服改良の流れの中で触れられてはいるものの[5]詳細に論じた研究はなされていない．

そこで，19世紀後期のイギリスで設立され活動した合理服協会をとりあげ，その活動と理念について明らかにし，合わせてその活動が19世紀後期イギリスの女子服においてどのような意義があったのかを考察することを目的とした．

資料としては，合理服協会が発行していた *The Rational Dress Society's Gazette* をとりあげた．

2. 合理服協会の設立と理念

合理服協会は1881年にハーバートン夫人，キング夫人らによって設立された[6]．*The Rational Dress Society's Gazette* に掲げられた巻頭の文章から，合理服協会の設立の趣旨と活動目的について明らかにすることができる[7]．冒頭に「健康と快適さと美しさに基づいたスタイルのドレスを，個人の好みと便利さによって着用することを促進する」とあり，さらに，「健康と快適さ，美しさのどの見地からも推奨することのできないファッションの，不断の変化を非難すること」と記されており，個人の自由な選択の結果として合理的な服が着用されるようになることを目的とし，さらに合理的な服とは健康的であり快適であり，美しい服

NII-Electronic Library Service

Japan society of Home Economics

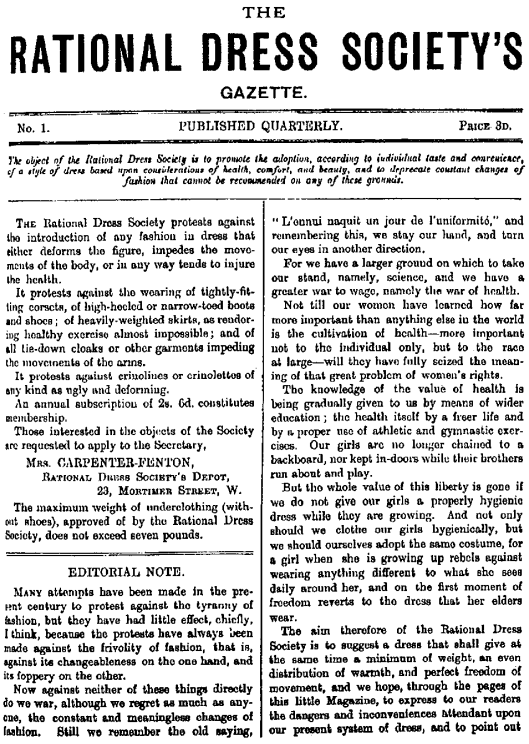
であると考えていることが分かる．また，それらの見地から非難すべきと考える流行については，その抗議の対象が挙げられており，健康的でないもの，すなわち健康を損ねるものとしては「健康的な運動を妨げるきつくフィットするコルセット，ヒールが高くつま先のとがった靴」が挙げられ，快適でないもの，すなわち体の動きを阻害するものとしては「重いスカート，手を自由に動かすことのできないマント」が挙げられ，美しくないもの，すなわち体形を変化させるものとしては「醜く体形を変化させるクリノリン」が挙げられている．

また，キング夫人は合理服協会（Rational Dress Society）から分かれ，Rational Dress Association を設立するが[8]，1883 年には合理服展覧会を開催している．そのカタログには暫定的な委員として 16 名のメンバーとキング夫人の名前が挙げられている[9]．そこには Rational Dress Association のルールが記されているが，その一つに「協会の目的は男性と女性における衣服改良の宣伝と促進とする」とあるように，衣服改良を普及させることを目的としており，基本的な活動理念は同一であることが分かる．

このように，合理服協会は健康な動きを妨げるような拘束的な衣服，快適でない重い衣服，自然な体の美しさを醜く変形させてしまう衣服，すなわち当時の流行の衣服に対して意義を唱え，健康で快適で美しい合理的な衣服の着用の促進を目的とし，啓蒙活動を進めるために設立されたと考えられる．

3. *The Rational Dress Society's Gazette* の記事にみる合理服協会の活動理念

The Rational Dress Society's Gazette は，合理服協会が発行していた機関紙であり，合理服協会のルールには「講演，出版，会合，展覧会等を行う」とあるように，協会の目的を推進するための活動の一環として主に啓蒙を目的として発行されていた．発行していたのは 1888 年～89 年までの 2 年間で，3 カ月に一度発行される季刊誌ではあるが，実際には 1888 年 4 月から，7 月，10 月，1889 年の 1 月，4 月，7 月までの計 6 回発行されている．1 号 3 ペンスで販売されており，ページ数は各号とも記事が 8 ページと広告が 4 ページの計 12 ページとなっていた．また，各号とも巻頭に同一の文章で合理服協会の活動目的と入会の案内が記載されており，協会の一年間の会費は 2 シリング 6 ペンスで，「活動に興味を持った人は協会に問い合わせて欲しい」と連絡先が記されている（図 4）．



THE

RATIONAL DRESS SOCIETY'S

GAZETTE.

No. 1. PUBLISHED QUARTERLY. PRICE 3D.

The object of the Rational Dress Society is to promote the adoption, according to individual taste and convenience, of a style of dress based upon considerations of health, comfort, and beauty, and to deprecate constant changes of fashion that cannot be recommended on any of these grounds.

THE Rational Dress Society protests against the introduction of any fashion in dress that either deforms the figure, impedes the movements of the body, or in any way tends to injure the health.

It protests against the wearing of tightly-fitting corsets, of high-heeled or narrow-toed boots and shoes; of heavily-weighted skirts, as rendering healthy exercise almost impossible; and of all tie-down cloaks or other garments impeding the movements of the arms.

It protests against crinolines or crinolettes of any kind as ugly and deforming.

An annual subscription of 2s. 6d. constitutes membership.

Those interested in the objects of the Society are requested to apply to the Secretary,

MRS. CARPENTER-FENTON,
RATIONAL DRESS SOCIETY'S DEPOT,
23, MORTIMER STREET, W.

The maximum weight of underclothing (without shoes), approved of by the Rational Dress Society, does not exceed seven pounds.

EDITORIAL NOTE.

MANY attempts have been made in the present century to protest against the tyranny of fashion, but they have had little effect, chiefly, I think, because the protests have always been made against the frivolity of fashion, that is, against its changeableness on the one hand, and its foppery on the other.

Now against neither of these things directly do we war, although we regret as much as anyone, the constant and meaningless changes of fashion. Still we remember the old saying, "L'ennui naquit un jour de l'uniformité," and remembering this, we stay our hand, and turn our eyes in another direction.

For we have a larger ground on which to take our stand, namely, science, and we have a greater war to wage, namely the war of health.

Not till our women have learned how far more important than anything else in the world is the cultivation of health—more important not to the individual only, but to the race at large—will they have fully seized the meaning of that great problem of women's rights.

The knowledge of the value of health is being gradually given to us by means of wider education; the health itself by a freer life and by a proper use of athletic and gymnastic exercises. Our girls are no longer chained to a backboard, nor kept in-doors while their brothers run about and play.

But the whole value of this liberty is gone if we do not give our girls a properly hygienic dress while they are growing. And not only should we clothe our girls hygienically, but we should ourselves adopt the same costume, for a girl when she is growing up rebels against wearing anything different to what she sees daily around her, and on the first moment of freedom reverts to the dress that her elders wear.

The aim therefore of the Rational Dress Society is to suggest a dress that shall give at the same time a minimum of weight, an even distribution of warmth, and perfect freedom of movement, and we hope, through the pages of this little Magazine, to express to our readers the dangers and inconveniences attendant upon our present system of dress, and to point out

図 4. *The Rational Dress Society's Gazette*, April, 1888

次に合理服協会の活動の理念について述べられた記事について具体的に例を挙げて考察する．*The Rational Dress Society's Gazette* の記事はそのほとんどが啓蒙を目的とする論説文となっている．

まず，コルセットについては，“ドレスが健康に与える影響について”と題された記事の中で，コルセットの健康に対する害について次のように述べている．

> ウェストに 2 インチしか余裕が無く，腹式呼吸をすることができないため，呼吸量が減少する．血液中に必要なだけの酸素を送り込む事ができず，それと気づかないうちに体力を低下させ，健康を害している[10]．

さらに“衣服改良運動に対する陰口”という記事では，コルセットの害についての知識を得た主人や医者が，もしコルセットを外すように女性に指示したとしても，重いスカートときついボディスを着るのでは女性は更なる痛みに耐えなければならないとして次のような記述がみられる．

> 重いスカートのバンドは体を引っ張り，ボディスのボーンは体中をすりむき多くの痛みを与えるため，それらの痛みの感覚を麻痺されるほどのコル

NII-Electronic Library Service

Japan society of Home Economics

セットの苦痛がなければ耐えられない[11].

ここではコルセットの苦痛を述べるとともに，流行のファッションについても非難し，合理服の必要性について説いている．

次に美しさについて述べている記事をみてみると，“美しさと適合性”の中で，美しさの基準としてフィットすること，すなわち適合性を挙げており，気候に合うこと，動きに合うこと，着用者に合うことが必要であるとして，次のように勧めている．

ドレスメーカーたちは，美しいドレスを作りたいと思うのなら，事あるごとに大英博物館に行き，パルテノン神殿のフリーズやミロのヴィーナスのコピーを目にすることによって，視野をリフレッシュさせると良い[12].

さらに「清潔な環境が健康な体を作り，その結果，永遠の美しさを持った人間の外観が作り上げられる」[12]と述べている．体形を変化させることは醜く，そのようなファッションも醜いものであると考え，人間の健康的で自然な体形が美しく，その体に合う服が美しい，と考えていることが分かる．

また，「気候に合うこと，動きに合うこと」の２点は快適性と共通するが，快適性については衣服は体の動きを妨げないような形態と重量であることが必要であると主張されており，合理服協会公認の下着は靴を除いた総重量が７ポンドを超えないと述べられている[7].

4. 合理服協会が発表した衣服

合理的な服とは健康的であり快適であり，美しい服であるという理念のもと，合理服協会ではその理念を具体的なデザインとして具現化している．婦人服だけでなく子供服についても発表しているが，ここでは婦人服として発表されたディバイデッド・スカートを取り上げる．図５は合理服展覧会のパンフレットに合理服として掲載されたものであるが，コルセットを廃し，ウエストは幅広のサッシュで緩やかに結ばれており，スカートは膝上までと短く，その下には二本の足に分かれたスカート，ディバイデッド・スカートを着用していることが分かる．

また，*The Rational Dress Society's Gazette* の中からディバイデッド・スカートについてに書かれている記事を取り上げ，合理服協会が活動理念をどのように具現化しようとしていたのか考えたい．

まず“Divided skirt”という記事があり[13]，そこでは“harberton”と“wilson”と言う愛称で呼ばれている２種類のディバイデッド・スカートが挙げられている．“harberton”は細身のディバイデッド・スカートで，足首周りで1/2ヤードの幅があり，その周りには細いプリーツがたくさんついていると紹介されており，“wilson”については，それよりも幅広で，それぞれ１と1/2ヤードの幅があり，プリーツも足首周りだけでなくウエスト近くまであり，スカートのように垂れ下がっているようにアレンジしたと紹介されている．また，布が多く必要なので軽い素材で作ると良いと書かれており，パターンは合理服協会で入手できると記されている．

図５. Rational dress
Catalogue of Exhibits—Exhibition of Rational Dress 1883, 1883

また，合理服協会では自身でデザインを発表するだけでなく，積極的に合理服を製作販売するドレスメーカーを増やそうとしており，読者投稿欄に「合理的で可愛いドレスがほしいけれど，それはどこで手に入るのか．合理服協会の理念を実践しているドレスメーカーを教えてほしい」という投稿があるが，それに対してドレスメーカー３社と，靴屋３社の名前と住所を答えている[14]．その中には，*The Rational Dress Society's Gazette* に広告が掲載されているものもあり，Mrs. Piddington-horwood の店の広告には Divided petticoats という文字が見られる（図６）．また，靴屋の

NII-Electronic Library Service

Japan society of Home Economics

図 6. Mrs. Piddington-horwood の店の広告
The Rational Dress Society's Gazette, Oct., 1888

Dowie & Marshall 社は本来の足の形のままの靴と変形された足の靴を並べて広告し，さらに合理服展覧会や国際健康博覧会でメダルをとったと宣伝している（図 7）.

さらに，日本の袴とディバイデッド・スカートの関わりについて記されている記事が見出せた[15]．そこには *The Daily News* の記者のシマダ氏が協会に袴を贈ったと記されており，その袴について，「全部に黒い絹の裏のついた，細い黒い縞のダークブルーの絹製」のものであると書かれている．そして，次のような記述がある．

> これは日本の紳士の民俗服だが，とても可愛らしく，とても実用的な衣服である．青い綿でできたそれらの服の一つは，数年前に合理服協会のメンバーの一人によって購入され，“Wilson” として知られるディバイデッド・スカートの基になった．

日本の袴を参考にしたことが明記されており，日本と合理服協会の運動の関わりを考えるうえでも興味深い記述である．

このように合理服協会では「健康で快適で美しい」服という理念の具体的なデザインのひとつとして，日本の袴を参考にしたディバイデッド・スカートを発表しその着用の促進のために自らパターンを販売するだけでなく，ドレスメーカーにも製作販売を積極的に働きかけていたことが分かった．

図 7. Dowie & Marshall 社の広告
The Rational Dress Society's Gazette, Oct., 1888

5. 合理服協会についての雑誌記事

さらにこれらの合理服協会の活動について，当時の婦人雑誌にはどのように紹介されているか，まず *The Queen* の合理服協会主催の講演会を紹介した記事を取り上げてみてみたい．そこでは「現在の私たちの衣服に広くいきわたっている間違いを指摘するものだった」として，いくつもの講演の内容が詳しく紹介されており「多くの賛同を得て閉会した」と書かれている．

> ハーバートン夫人は，トルコ風のズボンと短いスカート，ウエストにサッシュをまいた短いジャケットを着用した女性の絵を取りあげて，コルセットの害について指摘した．他の絵には，コルセットでゆがめられた女性の体とそうでない体を比較する二つのヌードと，ファッショナブルなドレスをコルセットをつけて着たものとつけないで着たものを比較するイラストが描かれていた[16]．

このように比較の絵を用いるなどして分かりやすく主張を伝えようと工夫していることもうかがえる．また，その記事は決して批判的な論調ではなく好意的に紹介されている．

ディバイデッド・スカートについて次のような記事もあった．

> 15 ヶ月前，ハーバートン夫人と合理服協会によって紹介されたディバイデッド・スカートについて記事を書いた．その時から，合理性と便利さを女性の服に対して求める人々が急速に増えている．

NII-Electronic Library Service

Japan society of Home Economics

そして，多くの女性が流行の服の外見を変えることなく，ディバイデッド・スカートを常に着用するようになっている．（中略）そして，1年3ヶ月前に同様の記事を書いた時は，合理服を扱っている店は3店舗しか紹介できなかったが，今ではロンドンだけでも12店舗以上の店が合理服を扱っている[17]．

このように，外見上は着用していることが分からずに，ファッショナブルな装いを変えることなく着用できるため，ディバイデッド・スカートは急速に普及していったことが分かる．

さらに *The Lady's World* には合理服運動と題した，合理服協会と合理服についての記事がみられる．そこでは合理服協会の理念を詳しく紹介し，次のように述べている．

ディバイデッド・スカートは暖かさや心地よさや着易さで悩むことは決してない．そして隠されて見えなくなると，その奇妙さは誰にも気づかれない．もしディバイデッド・スカートが社会に受け入れられるとすれば，このような着方でしょう[18]．

このように，ディバイデッド・スカートの合理性については認めたうえで，ここでも外見上はそれと分からずに着用すれば受け入れられるとしている．

このように，合理服協会の理念やディバイデッド・スカートの合理性には一定の理解を示しながらも，着用についてはファッショナブルな外見を変えることには抵抗があったことが分かる．

6. 合理服協会の活動の課題と意義

The Rational Dress Society's Gazette の記事では，流行のファッションを非難し合理服の意義を説くと同時に，自らの活動の課題についても盛んに述べられている．

最も大きな課題としては，「われわれはファッションに対して抗議してきたが，ほとんど効果がない」と述べられているように[7]，合理服はファッショナブルであるとは受け止められなかったため，ファッショナブルな衣服を着たいという欲求にはなかなか勝てず，多くの女性には支持されなかったことが挙げられる．

また，女性に対する啓蒙ももちろんであるが，男性に対する啓蒙の必要性も再三にわたって述べられており，そのひとつに次のような記述が挙げられる．

女性よりむしろ男性のほうが，その時代の最も魅力的であるとされている女性らしさを愛らしいと思い込んでいる[12]．

女性がファッショナブルな衣服を求めるだけでなく，男性が女性らしさを求め，男性の価値観によって女性が装わされている現実について指摘している．そして，そのことが合理服の普及の大きな妨げになっていると，男性に対しての啓蒙も課題として述べられている．

さらに，すべての階層の女性に普及させることの難しさも述べられており，貧しい階層への啓蒙の必要性も説いている．活動に興味があっても協会に入らない人が多く，それが資金不足につながっているとも訴えている[7]．これらのことは，何度も言い方をかえて記事の中で述べられており，合理服協会の活動の課題であったと考えられる．

以上のことから，合理服協会は，合理的な服すなわち健康的で快適で美しい服の促進を目的として活動していたことが分かった．そして，その理念を具体的なデザインとして発表しており，そのひとつが合理服である．しかし合理服はファッショナブルな衣服ではなかったため，当時の女性にはその着用に抵抗があり，さらに男性も女性に愛らしく装わせることを望んだため，着用させることには抵抗があった．この抵抗が合理服の普及の妨げの一因であったと考えられ，合理服協会の活動の課題でもあったと考えられる．理論的に合理服の有用性と流行のファッションの弊害とを説いた合理服協会の活動は，協会自身が意図したことではないにせよ，衣服を改革することによって，それを着用する意識を改革することであったのではないかと考えられる．すなわち，女性は男性に従属するものとされていた意識に衣服改革によって揺さぶりをかけるものであったと考えられる．さらに男性の価値観によって女性が装わされているという実情から考えると，合理服協会の衣服改革は着用する女性だけではなく，両性に対する意識改革であったともいえ，19世紀後期イギリスにおいて，衣服を通して新たな意識を提示したと考えられる．

本稿で使用した *The Rational Dress Society's Gazette*, *The Queen* については，日本女子大学佐々井研究室所蔵のものをお借りいたしました．本稿作成にあたり，多くのご教示をいただきました佐々井啓教授に深く感謝いたします．

なお本稿は2007年5月に行われた㈳日本家政学会第59回大会での研究発表に加筆・修正を加え，科学

NII-Electronic Library Service

Japan society of Home Economics

研究費補助金（基盤研究（C））（課題番号 16500485 研究課題「服飾におけるジェンダーの比較文化的研究」）の助成研究に加筆したものです．

引 用 文 献

1) 古賀令子：『コルセットの文化史』，青弓社，東京，61-72 (2004)
2) Byrde, P.: *Nineteenth Century Fashion*, B. T. Batsford Limited, London, 169 (1992)
3) Cunningham, P. A.: *Reforming Women's Fashion, 1850-1920*, The Kent State University Press, Ohio, 116-119 (2003)；佐々井啓：オスカーワイルドの服飾—その装いと意識—，服飾美学，**26**，137-152 (1997)
4) Byrde, P.: *Nineteenth Century Fashion*, B. T. Batsford Limited, London, 162-165 (1992)；好田由佳：後期ヴィクトリア社会におけるアウトドアファッションの流行—「新しい女性」の誕生と関連して—，服飾美学，**43**，35-52 (2006)；好田由佳：19 世紀末ローンテニスにみる装いと身体，服飾美学，**27**，85-100 (1998)
5) 古賀令子：『コルセットの文化史』，青弓社，東京，75-76 (2004)；能澤慧子：『モードの社会史』，有斐閣，東京，240 (1991)
6) Cunningham, P. A.: *Reforming Women's Fashion, 1850-1920*, The Kent State University Press, Ohio, 67 (2003)
7) *The Rational Dress Society's Gazette*, April, 1 (1888)
8) Cunningham, P. A.: *Reforming Women's Fashion, 1850-1920*, The Kent State University Press, Ohio, 123-124 (2003)
9) *Catalogue of Exhibits—Exhibition of Rational Dress 1883*, 1 (1883)
10) *The Rational Dress Society's Gazette*, July, 4 (1888)
11) *The Rational Dress Society's Gazette*, Jan., 2 (1889)
12) *The Rational Dress Society's Gazette*, July, 2 (1888)
13) *The Rational Dress Society's Gazette*, April, 6 (1888)
14) *The Rational Dress Society's Gazette*, Oct., 8 (1888)
15) *The Rational Dress Society's Gazette*, July, 1 (1889)
16) *The Queen*, Feb., 10 (1883)
17) *The Queen*, Feb., 2 (1883)
18) *The Lady's World*, Feb. (1887)

NII-Electronic Library Service